

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 高知県高知市朝倉米田方言

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-10-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 土居, 重俊 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00003025">https://doi.org/10.15084/00003025</a>

方言録音資料シリーズ—5

# 高知県高知市朝倉米田方言

土居重俊編

1 9 6 8

このテキストは、総合研究「地方における話しことば教育法改善のための基礎的研究」(代表者 大石初太郎) の一部として、研究用の資料として作られたものである。

方言の録音方法、方言の表記の方法などのあらましについては、別に作った「方言の録音とテキストの作成について」（国立国語研究所 話しことば研究室編）を参照されたい。

ここに収めた方言の録音とテキストの作成とは、高知大学教授 土居重俊 が担当した。

# もくじ

収録地点とその方言について ..... 2

表記について ..... 3

## 本文

1. しばてん夜話 ..... 5

2. 土佐のオナゴのよもやま放談 ..... 18

注 ..... 40

## 収録地点とその方言について

1. 収録地点名： 高知市 朝倉 <sup>よねくら</sup>米田

### 2. 収録地点の概観

昭和42年2月末調査では朝倉地区は世帯数4143人口14452。高知大学や学芸高校などがあるが、全般的には農村的な性格がかなり濃いようである。古墳などがある。産物としては農産物（米・麦など）。土讃線朝倉駅があり、市内電車・バスも利用される。

### 3. 収録した方言の特色

/z i/ /d i/ /zu/ /du/ が区別され、鼻音化が聞かれ、母音の無声化が極めて少ないなど土佐方言の特質をそなえている。助詞の融合も顕著である。

### 4. 地点選定の理由

高知市の方言の保守地帯と観察した。川添繁尾さんは県外居住期間の長いのが難だが、土佐方言の本来の特質はよくそなえているし、話上手で、土佐のオナゴの元気な性格を100%所有しているので、一応採用してみた。

## 表記について

[指定の字母以外に使用した字母、および使用した補助記号]

字母・補助記号の種類	語例と意味	(標準語訳)	音価についての注記
t i	k o : t i	(高 知)	[t̪ i]
t u	k i k u t u k a	(聞くんだって)	[t̪ s u] [t̪ u]
t ja	j u : t j a r u	(言ってやる)	[tʃ a] [tʃ a]
t ju	o m o : t j u :	(思っている)	[tʃ u] [tʃ u]
t jo	h a k a i t j o k u	(はかせておく)	[tʃ o] [tʃ o]
d i	w a r a d i	(わらぢ)	[d̪ i]
d u	s i r a N d u k u	(知らずに)	[d̪ u] [d̪ u]
d ja	s u k i d j a	(好きだ)	[d̪ a]
d ju			
d jo	h a n a d j o : t i N	(鼻ちょうちん)	[d̪ o]
( )	挿入句的		

- 標準語訳に適当に「ぢ」「づ」を使用した。
- オノマトペアのわかつ書きの表記にやや統一を欠いたところがある。
- 鼻音化は濃淡があり、あまりはっきりしないものも一応体系的に表記した。(d̪ g)
- Nの後のd, gは～を記さなかった。
- dodai kibarikiqtjoqta やdoda i iki oikiqtju:などのdodaiの最初のd, goNgoN goNgoNなどの最初のgなども少し鼻音化が認められるようであるが、テキストには～を記さなかった。

# (1) しばてん夜話

録音日時 1967年1月8日  
録音場所 農家(高知市朝倉米田)

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)  
K 川添繁尾 女 明治27年生 製米業 高知市朝倉で生まれ、23才から10  
年ぐらい神戸居住、以後朝倉

解説： 一の闇というすもう取りが、しばてん(柴天狗。土佐に住む妖怪)の正体をつかまえたというので、近所の人が見てみると、わらじと馬のくつだった。そこで一の闇はまだ しばてんにばかされているぞというので、みんなが杉の葉でこのすもう取りをふ。すべて正気づかせる。そのいきさつがユーモラスに語られている。

K oman kitakajo ma: agarija naNtuzej o man  
あなた 来たかね。まあ おあがりよ。なんだって あなた  
joga nagaikini ateni<sup>(1)</sup> mata sibatenno<sup>(2)</sup>  
夜が 長いから、わたしに また しばてんの  
hanasjo se:tukajo ija: oman ijoijo<sup>(3)</sup> sibaten ga  
はなしょ せよ だって、いや あなた ほんとに しばてんが  
sukidjanos: si<sup>(4)</sup> oman soro: do sibaten ga suki-  
すきだね。 あなた それほど しばてんが すき  
djaqtara mo' sibatenno jomesanni nari ja  
だったら、もう しばてんの 嫁さんにはなりよ。  
sorjakendo hutugo: djaqkendo soro: do omaNga  
それはしかし 不都合だが、 それほど あなたが  
hanasio se: se: ju: djaqtara sitjaro  
話を せよ せよと 言うのだったら、 してやろう。  
sikasi ne: oman horahorja<sup>(5)</sup> ano: inoni<sup>(6)</sup> itino-  
しかし ねえ あなた ほらほら あのう 伊野に 一の

sekito ju: tekara u:Nto otokomaeno sumotoriga  
関と 言ってから、 うんと 男前の すもう取りが

oqturo siqtju: rogajo nani siraNtukajo  
いたろう。 知っているだろう。 なに 知らないだって,

ajakasi: ano otokomaeno sumotorjo sirankajo  
あほうらしい。 あの 男前の すもう取りを 知らないの。

so:kajo so:kajo siraN mona sijo:ga naiwajo  
そうかね、 そうかね。 知らん 者は しょうが ないわよ,

nambo ju:tati honnara atega korekara sono  
どうといくら 言っても。 そんなら わたしが これから その

sibaten ni unto bakasaretato ju: hanasjo  
しばてんに うんと ばかされたと いう 話を

sitjauki' honde mimio mimino suo<sup>(7)</sup> kozjanto  
してやるから それで 耳を, 耳の 穴を たいそう

horimakuqtoitekara kikijorijo e:kajo sono  
徹底的にほっておいてから 聞いていなさいよ。 いいかね その

it inoseki ga zinzini omaN hidie jobarete  
一の関が 神祭に あなた 尾立へ 呼ばれて  
(地名)

itato itekara omaN sakjo doqsari no:dekara  
行ったとき。行ってから あなた 酒を どっさり 飲んでから

baqtabatasite modoqte kijoqtatuga mo:qte  
ぱったばたして もどって 来ていたとき。 もどって

ki joqtatokoroga omaN mjo:na kura:i kukara<sup>(8)</sup><sup>(9)</sup>  
来ていたところが あなた 変な 暗い 所から

hitoga deteki tekara sumo toro sumo toro  
人が 出て 来てから、 すもう 取ろう すもう 取ろうと

ju:te ju:to ju:kinf josi dja onsj:<sup>(10)</sup> orao<sup>(11)</sup>  
言って 言うんだって。 言うから よしちゃ 貴様は おれを

sumotorito ju:koto: siraNdukü sonna koto:  
すもう取りと いう ことを 知らずに, そんな ことを

i:ju:rogä oragä mij oqte mij buqtuketjaoto  
言っているだろうさ。おれが 見ていて みよ, ぶつづけてやろうと

omo: te kara: ko ito ju: mo N de ja q tatu g a ja q te  
思ってから、 来いと いうので やったとさ。 やって

mo q tja m o tja mo tja m o tja s i j u: u t i n i m j o: n i  
もっしゃもっしゃ もっしゃもっしゃしているうちに、 変に

(12) ti q kuto orano a si g a m j o: n i h a r j o s a s u j o: n i  
すこし おれの 足が 変に 針を さすように

tikutikusuru joto omo i d a i t a t o s o N d j a: k i n i  
ちくちくするよと 思い出したとさ。 それだから

kor ja i k a N t o omo: te kor ja kor ja k j o: w a n e j a  
こりゃ いかんと 思って、 こりゃこりゃ きょうはだな、

mo: s j o: b u g a t u k a N k e N d o n e j a m j o: n i o r a:  
もう 勝負が つかねけれどだな、 変に おれは

a si g a i t a i k i k o N d o m e n i s j o: z e j a t o j u: t e k a r a  
足が 痛いから、 今度目(次回)に しようと 言ってから、

wakare t a t o s e: k a r a o m a N k o q k a r a i n o m a d e  
別れたんだって。 それから あなた ここから 伊野までと

j u: t a r a o m a N n a n b o g o t o g o t o a r u i t a t i i t i -  
言ったら、 あなた いくら ゆっくり 歩いても、 一

z i k a N k a i t i z i k a N h a N b a: d e i n a n j a i k a N g a d j a -  
時間か 一時間半ぐらいで 帰らねば いけないのだに、

n o n i o m a N g u r u g u r u g u r u g u r u s o k o m o k a m o  
あなた ぐるぐる ぐるぐる そこもかしこも

ma i k u r i m a: q t e k a r a o m a N u t i e i n i t u i t a w a  
歩きまわってから、 あなた うちへ 帰りついたのは

jo a k e n i n a q t a t o h o i t a r a h o r j a n j o: b o g a  
夜明けに なったんだって。 そしたら ほら 女房が <sup>(13)</sup>

o m a N m o: a N m a r i o s o i k i n i t o m a r i j u: t o o m o:-  
あなた もう あんまり おそいから 泊っていると 思

t j u: r o g a j o h o N d e s o n o n j o: b o: w a o m a N g u q -  
っているだろうさ。 それで その 女房は あなた ぐっ

s u r i s k u t u r o i d e n e j o q t a t o n e j o q t a t o k o r o g a  
すり くつろいで 寝ていたんだって。 寝ていたところが

oman itinoseki ga korjakorja hajo: okinka okinka  
あなた 一の闇が こらこら 早く 起きんか 起きんか,  
nanjo sijorja onsja' mo: jog a aketazoto  
何を しているか, お前 もう 夜が 明けたぞと  
ju: te ju:kini honde sono jomesa nmo biqkuri-  
言って 言うから, それで その 嫁さんも びっくり  
site a: to <sup>(14)</sup> ju:monde okitato tamaruka <sup>(15)</sup> okite  
して, ああと 言うもので 起きたんだって。おやおや 起きて  
to: akete mitatokoroga dodai o: gotojojo  
戸を開けて みたところが, たいそう 大事だよ。  
kimonowa oman hikisjakaretjouwa hadakan i  
着物は あなた 引き裂かれているは, 裸に  
naqtakara asimo dokomo oman barad e <sup>(16)</sup> kakimu-  
なってから 足も どこも あなた バラで かきむ  
siraretekara timoduredjato se:kara kinzjono  
しられてから 血まみれだって。 それから 近所の  
hitog a mina okite kitekara un korja do:itati  
人が 皆 起きて 来てから, うん これあ どうしても  
sibaten ni bakasaretekara u dusoto sumo to q-  
しばてんに ばかされてから, 雜草の茂みと すもうを 取っ  
tanitigainaito ju:koton i naqtato hoide oman  
たにちがいないと いうことに なったとさ。 それで あなた  
sono itinosekimo horja mad a wakaisi nakana-  
その 一の闇も ほら まだ 若いし なかな  
ka nin kimono no sumotorid jaqtakin i mijo q te  
か 人気者の すもう取りだったから, 見ていて  
mijo kondokoso oraga jurusan zoto kondowa  
みよ, 今度こそ おれが 許さんぞと, 今度は  
oraga itekara honto: biq tokoma etekara hiko-  
おれが 行ってから ほんとに つかまえてから 引き  
zuq te mod oqte kitekara misemon ni sitjaroto  
ずっと もどって 来てから, 見せものに してやろうと

ju: mo N de dōdai kibari kiq tjoq tatu ga<sup>(17)</sup> (kor ja-  
いうので、 たいそう 威張りちらしていたんだって。 (ごら  
kor ja oman nanjo si ju: ze jo sono zamawa  
こら あなた 何を しているの その ざまは  
jōdārjo kuq te ijati ja (笑声) hanadōjo: ti no  
よだれを くって(たらして) いやだよ。 鼻ちょうちんを  
daitekara ine buq tekara sonde ate gā ju: tja:-  
出してから 居眠ってから。 それで わたしが 言ってあ  
ra: hazimeni mimino suo hoq tekara kozjanto  
らあ、はじめに 耳の 穴を ほってから よくよく  
kiki joto ju: te ju: tja: runi so:kajo so:kajo  
聞いてなさいと 言って 言ってあるのに。 そうか そうか  
hon na kikutukajo hon na maqkoto kikukajo  
それなら 聞くんだって。 それなら ほんとに 聞くの。  
jos i hon nara sorekara sakjo ju: tja uki arja  
よし それなら それから さきを 言うてやるから。 あれ  
ija ija: ata: oma nno hanadōjo: ti nni turare-  
いや いや わたしは あなたの 鼻ちょうちんに つられ  
tekara mi: ja oma N dokomade hanasjo sitjoq-  
てから、 見なさい あなた。 どこまで 話を してい  
tajara wakja wakaranjo: ni naq tekara wasure-  
たやら わけは わからぬように なってから、 忘れ  
te simo: taga jō sa: to dokomade djaq turono:  
て しまったよ。 さあと どこまでだったろうねえ。  
bi qto oma nga ju: te mito: seja a: so:ka so:ka  
すこし あなたが 言ってみてくださいよ。 ああ そうか そうか  
jo qsi waka qta ano bi qtokomaen iku tokoro-  
よし わかった。 あの ひっつかまえに 行く ところ  
djaq tan o' jos i waka qta ) hon den e: se: kara  
じゃったねえ。 よし わかった。 ) それでねえ それから  
sono it inoseki gā go: gā suite ore nkin i  
その 一の鬱が 腹が 立って いられないから、

mi joq te mi jo koN dowa bi q tokomaet ja oto omo:-  
見ていて みよ、 今度は ひっつかまえてやろうと 思

tekara joruno zju: zigo roni mata sono: hid-i-  
ってから、 夜の 十時頃に また その 尾立

made itato ite se:kara koN da koq tjakara  
まで 行ったとき。 行って それから 今度は こちらから

sumo toro sumo toroto ju:te hoq so i<sup>(18)</sup> koede  
すもう 取ろう、 すもう 取ろうと 言って 細い 声で

ju:tatuga ju:tatokoroga oman muko:kara  
言ったそうだ。 言ったところが あなた 向うから

mata sumo toro sumo toro ju:to josidja mi-  
また すもう 取ろう、 すもう 取ろうと 言うんだって。 よし 見て

joq te mi jo koN bankosoto omo: tekara sa: koi-  
いて みよ、 今晚こそ 思ってから、 さあ 来い

to ju:te ju:mama oman matakurano sitae  
と 言って、 言うま あなた またぐらの 下へ

bjuq to teo jaq tatu ga nazekato ju:tara sono  
びゅうと 手を やった(入れた)とき。なぜかと 言ったら その

matakurakara sibaten ga sorja koito ju:ta  
またぐらから しばてんが そら 来いと 言った

tokini matakurakara sjuq to nig eruto omo:-  
ときに、 またぐらから しゅっと 逃げると 思って

tju:gadjakini honde sjuq to teo jaq te biqto-  
いるのだから。 それで しゅっと 手を やって ひっつ

komaeruto oman tegotaega aqtakajo honde  
かまえると、 あなた てごたえが あったよ。 それで

tegotaega aqtaki josidja onsjaj orao baka-  
てごたえが あったから、 よし 貴様は おれを ばか

si joq taga koN bankoso tokomaetazoto omo: te-  
していたが、 今晚こそ つかまえたぞと 思って

kara zuruzuru hiqpaqte modoqte kitato  
から、 ざるざる ひっぱって もどって 来たんだって。

ho i de k on dowa warikata ini jo : ga hajakaqtani-  
それで 今度は わりかた 帰りようが 早かったらしいが。

ka : ra n ga se : kara mo d o q te k ijo qt ato koro g a.  
それから もどって 来よったところが、

mo : z i b u n mo m j o : ni m a d a a s i n o k i z u n o n o k o -  
もう 自分も 変に まだ 足の 傷の 残

r i g a h i r i h i r i i t a i k i n i u n zo : k u s o g a w a r i :  
りが ひりひり 痛いから、 うん しゃくだあ、

mo : h o n t o : ora : s i b a t e n n o u t a d e m o u t o : t j a -  
もう ほんとに おれは しばてんの 歌でも 歌って

r o t o o m o : t e k a r a s o k o d e j a q t a t u g a k i k i j o r i j o  
やろうと 思ってから、 そこで やつた(歌った)んだって。聞いていなさいよ。

s o : r e g a n e t a m a r u k a n e ju : b e n o j u : m e n i n e : t o  
それがね たまるかね 夕の ゆうめに ねえと  
(たいへんだ)

t j a q t j a t o k a w a i a n o k o n o t e o h i : t e o n s j a  
ちゃっちゃんと 可愛い あの この 手を 引いて おんしゃ  
(はやし)

n a n n a r a o r a s i b a t e n j o o n t j a n s u m o t o r o  
なんなら おら しばてんよ おんちゃん すも 取る  
(なんだ)

t o r o : t i j a t j a q t j a : q t o ' j u : m o n d e j a q t a t u g a  
取ろうちや ちゃっちゃんと 言うので やつたとさ。  
(てば)

(g e n i u s o s o r j a u s o s o n o u t a g a o m a n s o n o  
(実は うそ。 それあ うそ。 その 歌が あなた その

z i b u n n i a r o : k o t a n a i d j a i k a s o n o u t a w a  
時分に あろう ことは 無いぢゃないか。 その 歌は

p e g i : h a j a m a s a n g a k o : t i : k i t e k a r a h o r j a  
ペギー 葉山さんが 高知へ 来てから、 ほら

a n o : n a n g o k u t o s a o h a j a r a i t a t o k i d j a r o g a j o  
あのう 南国土佐を はやらせた ときだろうさ、

s o n o t o k i n i d e k i t a u t a d j a k i n i h o n d e s o n o  
その ときに できた 歌だから、 それで その

t o k i n i s o n o u t a g a a r o : h a z a n a i k e n d o a t e m o  
ときに その 歌が 有ろう はずは 無いけれども、 わたしも

mjo:ni omaNga neburusi mo: aho:nika:ranki  
なんだか あなたが 跳るし、 もう あほうらしいから,

tikuto uta uto:te mitatokorojo) josi se:-  
すこし 歌を 歌って みたところよ。 ) よし それ

karadja se:kara omaN soreo biqtokomaetekara  
からだ。 それから あなた それを ひっつかまえてから

hikozuqte modori joqtatokoroga mjo:ni tegota e-  
ひきずっと もどっていたところが, 変に てごたえ

~ga karu: naqtato arja do: ju: mondjaro ora-  
が 軽く なったとさ。 あれ どう いう もんだろう, おれ

~ga saqkini hiqpaqte iki ju: tokinja zongai  
が 先刻 ひっぱって 行っている ときには 案外

omokaqtato omo:tanoni mjo:ni karuijoto omo:-<sup>(20)</sup>  
重かったと 思ったのに, 変に 軽いと 思つ

te omo:takendo ma: hajo: utie indekara ko-  
て 思ったけれど, まあ 早く うちへ 帰ってから こ

no biqtokomaete kita sibaten miNNani mi-  
の ひっとらえて 来た しばてんを みんなに 見

setekara miNNani biqkurisaitjaoto omo:tekara  
せてから, みんなに びっくりさせてやろうと 思ってから,

dodai ikioikiqtju: gajaki horja honde zu:to  
たいそう 勢こんでいるのだから, ほら。 それで ずっと

uti modoqte kite se:kara mad a sono toki  
うちへ もどって 来て, それから まだ その とき

joga aketja:senkini honde minna:ni korakora  
夜が 明けてはいないから, それで みんなに こらこら

minna: dete koi jo dete koi jo oraga konban-  
みんな 出て 来いよ, 出て 来いよ, おれが 今晚

koso sibaten hiqtokomaete kitazo onsiara:ni  
こそ しばてんを ひっつかまして 来たぞ お前たちに

misetjara:ja misemonni suruzoto ju:monde ju:tato  
見せてやるよ 見せものに するぞと いうので 言ったとか。

ju:to so qkaramo ko qkaramo dorja misete mo-  
言うと そこからも ここからも どれ 見せて も

rao dorja misete moraoto ju:monde omaN kin-  
らおう、どれ 見せて もらおうと いうので、 あなた 近

zjono hitoga atumaqte kite mitatokoroga  
所の 人が 集って 来て 見たところが、

omaN sorega do:zejo sono omaN hi qpaqte ki-  
あなた それが どうかね その あなた ひっぱって 来

ta monwa na n to omou a: na n to omoudokorono  
た ものは 何と 思う。 あー なんと 思うどころの

sa:gikajo omaN sorega omaN sirikireno wa-  
さわぎかね あなた。 それが あなた しりおれの わ

radito Nmano kutudjato Nmano kutu ju:tara  
らちと 馬の くつだって。 馬の くつと 言ったら

naNzejotu kota arukajo omaN omaNra atera  
何だねといふ ことは あるかね あなた あなたたち わたしなどと

meqso honna tosja tiga:Nnoni siran kota  
あまり そんなに 年は 違わないのに、 知らん ことは

aruka mukasi ano hora imamitaini kuruma  
あるものか。昔 あの ほら 今みたいに 車は

nai tokini Nmani senakae nanikani owaiteka-  
無い ときに 馬に 背中へ なにやかや 負わしてか

ra tintin tintin ju:te hi qpaqte kijoqtadja-i-  
ら チンチン チンチン いって ひっぱって 来ていたじゃない

ka ano tokini horja kanagutuo uqtjoite so-  
か。 あの ときに ほら 金ぐつを 打っておいて そ

no ue: warade sita kutuo hakaitjoqturogajo  
の 上へ わらで つくった くつを はかせていたんだろう、

arega omaN usino kutudjai ka so:jo sono  
あれが あなた 牛の くつちやないか。 そうよ。 その  
(馬のの誤り)

omaN usino kututo waradino omaN sirikireo  
あなた 牛の くつと わらぢの あなた しりきれを

hi q pag te kara kore ga sibate N d jate mo : q te  
ひっぱってから、これが しばてんぢゃといって もどって

ki ta tu g a se : kara oma N ki n zj ono hit o g a do -  
来たんだって。それから あなた 近所の 人が まっ

da i o : ~ g oto saw a ~ g ijo k e N do oma N kor ja i ka N -  
たく たいへん(な) 騒ぎよ。けれど あなた これは いかん

zoto do : i tati m a d a sibate N ni ko it uwa dama -  
ぞと、どうしても まだ しばてんに こいつは だま

s a ret ju : kini do : zo si te kara h ajo : kor jo nao -  
されているから、どうかして 早く これを なお

s a nja i ka N g a do : sur ja jato ju : mo N de se : ka -  
さねば いかんが、どうするのかと いう もので、それか

ra mi N na : ~ g a j o s i s i j o : nai zoto ho N de ora ~ g a  
ら みんなが よし しようがないそと、それで おれが

j a mae i te kara z a N z i a n o : s u g i n o ha o t o t e  
山へ 行ってから、すぐに あのう 杉の 葉を 取って

ku r u k i so re ~ de so re ~ de hu sube makuro : se : kara  
来るから、それで それで 徹底的にふすべよう、 それから

u n to koi t jao da i te k i t a r a so re o no m ase jato  
うんと 濃い 茶を 出して 来たら、それを 飲ませてやろうと

ju : mo N de do d a i s o n o s u g i n o ha d e go N go N go N -  
いうで、 たいそう その 杉の 葉で ごんごん ごん

go N s o n o : o m a N i t i n o s e k i o hu sube mak u q t a t u g a  
ごん そのう あなた 一の闕を ふすべにふすべたんだって。

to k o r o g a s o r j a t a n u k i d j a n a k a q t a k i k o N k o N -  
ところが それは たぬきでは なかつたから こん こん

t o w a ju w a z a q t a k a m o s o r j a s i r a N e j o a t a : s o -  
とは 言わなかつたかも それは 知らんよ、 わたしは。それ

r j a s i r a N k e N do o m a N so re ~ de da i b u ho N k i g a  
は 知らないけれど あなた それで だいぶ 本気が

t u i t e o m a N k o m j o : n i h u r a h u r a me o ba t i k u t i  
ついて あなた こう 変に ふらふら 目を ぼちくち

batikutisaitekara mjo:ni su:qto naqte kitabachichasetekara  
ぼちくちさせてから 変に すうっと なって 来た

tuga ikana omaN itinoseki demo se:kara a  
そうだ。 いかな あなた 一の関でも それから あ

i jo i jo korewa sibaten ni damasaretato kendo  
ほんとに これは しばてんに だまされたと しかし

kono sibaten wa nakanaka wakated ja naizoto  
この しばてんは なかなか 若手では ないぞと,

nedosjo kutjouzoto nedosjo kuwanja: koroho-  
年期を 入れているぞと, 年期を 入れなければ これほ

domade e:bakasankinito ju: hanasiga ho:bo:e  
今まで ばかすことができぬからと いう 話が 方々へ

hirogogtato hirogogtakin i hondja: kini mo:  
ひろがったとさ。 ひろがったから それだから もう

joruwa omaN hitoga mo: e: to:ranjo:ni naq-  
夜間は あなた 人が もう よう 通らんように なっ

tawajo sibaten ga bakasukini bakasukini ju:  
たわよ, しばてんが ばかすから ばかすからと いう

koton i naqte nani: ima omaN sibaten ga oru-  
ことに なって。 なに 今 あなた しばてんが 居る

katuka ajakasi: koto i:naja omaN ima hidawa  
かたって, ばかばかしい こと 言いなさるな あなた。 今 尾立は

ano: omaN do:rowa hiro naqte jamawa omaN  
あのう あなた 道路は 広く なって 山は あなた

kirihirai te simo: tekara hankana kuni naqte  
切り開いて しまってから, 繁華な 所に なって,

omaN jorumo josirakujo pito omaN o:kena  
あなた 夜も 夜通し あなた 大きな

kurumaga dondon to:riju: djaika do:ite ima-  
車が どんどん 通っているではないか。 どうして 今

goro sibaten ga oruzejo kendo omaN i jo i jo sibaten-  
頃 しばてんが 居るの。 けれど あなたは ほんとに しばてん

ni kodawaru omaNwa i jo i jo sibateNga suki~ja-  
に こだわる。 あなたは たいそう しばてんが すきだ  
ne: soro:~do sibateNga suki~jaq tara horja  
ねえ。 それほど しばてんが すきだったら、 ほら  
ate~ga e: koto osietjara:jo harimajatjo:ni  
あたしが よ いこと 教えてあげるよ。 番磨屋町に  
horja ko:tikenno omotjao ano omotjadja nai  
ほら 高知県の おもちゃを、 あの おもちゃち ない  
nai omijage omijage so:so: omijage uriju:  
ない。 おみやげ、 おみやげ、 そうそう おみやげ 売っている  
misega aruro:~gajo akojara nju:ko:tijara<sup>(2)</sup>  
店が あるだろう。 あそこやら ニューコーチやら  
daimarujarano ano omotjan o uriba eite mi:ja  
大丸やらの あの おもちゃの 売り場へ 行って みなさい。  
hon nara sibateNga horja ano agurao kaito  
それなら しばてんが ほら あの あぐらを かいて,  
harae mjo:na ano harakakeo site atamae mjo:  
腹へ 変な あの 腹かけを して, 頭へ 変  
na teNga mitaina mono hi q tuketekara omaN  
な 天蓋(がい)みたいな もの くっつけてから, あなた  
sibateNga uriju:~djaika are hjakunizju:eN  
しばてんが 売っているじゃないか。 あれ 百二十円  
(「匁のあやまり」)  
daitara aru aru huto i g~djaq tara uNto:takai-  
出したら ある ある。 大きいのだったら うんと 高い  
keNdo hoqsoigade e:wajo omaN hjakunizju:eN  
けれど 細いので いいわよ。 あなた 百二十円  
daitekara ko:te kitekara dokozoe oitjoki  
出してから 買って 来てから, どこかへ 置いておおき。  
omaN i jo i jo omaN sibateNga suki~jane: jos i  
あなたは ほんとに あなたは しばてんが すきだねえ。 よし  
se:kara ma: tonikaku sibateNno hanasiwa  
それから まあ とにかく しばてんの 話は

korede owarimasita inurukajo un omosirokaq-  
これで 終りました。 帰るの, うん おもしろかっ

takajo honnara e:wajo honde inurja oman  
たの, それなら いいわよ。 それで 帰るなら あなた

daibu osoizejo konban kio tukete inijo siba-  
だいぶ おそいよ, 今晚。 気を つけて 帰りな。 しば

teenga dete kuruzejo sibatenga omaN suki dja-  
てんが 出て 来るよ。 しばてんが。 あなた すきだか

ki N: ko:nai hitotumo ko:nai pjuqto hasiq-  
ら。 ん こわくない, すこしも こわくない, ぴゅっと 走っ

te inurutukajo honnara ini ja ini ja ko:n-  
て 帰るんだって, そんなら お帰り, お帰り。 こわく

kerja ata: okuqtjaranki honnara ojasumi  
なければ わたしは 送ってやらんから。 それなら おやすみ。

sorja kita: horja mite mi: omaNno sono  
そら 来た ほら 見て ごらん あなたの その

kaoiro hitoqtumo kao iro naidjaika soreba:-  
顔色。 すこしも 顔に 色が 無いちゃないか。 それくらい

no koton i biqkuri si tekara omaN do:zejo  
の 事に びっくりしてから, あなた。 どう

konogorowane: tujo: naqtanowa kutuzita  
この頃はねえ 強く なったのは, くつした

n.Q.Q.n.a.to onagodjato ju: koton i naqtju: roga jo  
(言いさし)と 女だと いう 事に なっているだろう,

omaN sonna koto siqtjoqte omaN soreba: ni  
あなた。 そんな 事 知っていて あなた それくらいに

atega sorja ju: te odokaitaba: no koton i  
わたしが そらと 言って 驚かしたくらいの 事に

biqkuri sinaja ajakassi: meqso omaNmo kibaq-  
びっくりしなさるな, ばらしい。 あまり あなたも えらそう

tati ikan ikan inurukajo honnara mo: kondo-  
にしても いかん, いかん。 帰るの, それなら もう こんど

ko so o jasumi ba iba::i uN jo:jo i nda mo: ho-  
こそ おやすみ。 バイバイ。 うん やっと 帰った。 もう ほ  
n to: iq tumo iq tumo ki tekara hitoni sj abera-  
んと いつも いつも 来てから、 人に しゃべら  
itekara aa::no N:N mo\* atemo dareta mo:  
してから。 あーの んーん もう わたしも つかれた。 もう  
ma q koto sj abeq tekara ne buto:te ne buto:te  
ほんと しゃべって、 ねむくて ねむくて  
oreN dorja mo: ma q koto ne:t jao ne:t jao  
いられない。 どれ もう ほんとうに 寝てやろう、 寝てやろう。

## (2) 土佐のオナゴのよもやま放談

録音日時 1967年1月8日

録音場所 農家（高知市朝倉米田）

話し手

（略号）（氏名）（性別）（生年）（職業）（居住歴）

K 川添繁尾 女 明治27年生 製米業 高知市朝倉で生まれ23才から10年ぐら  
い神戸居住、以後朝倉

S 栄枝千代 女 大正元年生 農業 高知市朝倉で生まれ19才から6年間香  
川県居住、以後朝倉

X 不明

解説： 七十台と五十台との婦人が、服装・食物・家のあかり、神祭その他について、思い出を興味深く語る。マッコト・タマルカなど強調的な語いが随所にあふれ、きかぬ気の土佐人気質を反映している。

K (笑声) tada waro: tebakari oq tan dja wakarandja  
ただ 笑ってばかり いたのでは わからないぢゃ

ika<sup>(22)</sup> jos i honnara ju: tja o ate gane: ano: ni-  
ないか よし それなら 言ってやろう。 あたしがねえ あのう 二

zju: si tine Nma edjaki: ni qsi Nsenso: no hazima qta  
十七年前だから 日清戦争の 始まった

tokini ate Nmaret jugajaki hora  
ときに わたしは うまれているのだから ほら。

S tama: ruka daibuni narudjanai ka  
おやまあ だいぶに なるぢゃないか。

K daibuni nara: idja' oman sitizju: si: jo hon de  
だいぶに ならあ。 あなた 七十四よ。 それで

watashi ga hora zin zjo: itineNno tokino koto  
わたしが ほら 尋常 一年の ときの ことを

ju: tja uki jo: kiki ja  
言ってやるから、 よく お聞き。

S ju: te mi: ...  
言って ごらん。

K sono zibun no oman senssei wane: ma qkoto oman  
その 時分の あなた 先生はねえ ほんとに あなた

imawa oman mjo: na haikaran i titiraitekara  
今は あなた 奇妙な ハイカラに ちらしてから

oman sensseimo ma: ju: tara waruiken do onago-  
あなた 先生も まあ 言ったら 悪いけれど、 女

no senssei wa osiroi tuketekara ma qkoto hai-  
の 先生は おしろい つけてから ほんとに ハイ

kara djaken do aterano tokino senssei wa oman  
カラだけれど、 わたしたちの ときの 先生は あなた

ano hakama o tuqte ebitjano hakama o tuqte  
あの はかまを はいて えび茶の はかまを はいて

hora  
ほら。

S so: so:  
そう そう。

K se:kara oman atama ju:tara jokoboriga: no  
それから あなた 頭と 言ったら 横堀川の  
wasureta darjarosanno: arja: jokoboriga: no  
忘れた 誰さんかねえ、 あれは 横堀川の  
darezejo arja:  
誰かね、 あれは。

X otakasan<sup>(23)</sup>  
おたかさん。

K otakasan otakasanmitaina anna itjo:gaesino  
おたかさん。 おたかさんみたいな あんな いちょうがえしの  
kamio senseiga ju:tjoq taki hora  
髪を 先生が ゆっていたから ほら。

S ~h:N  
ふーん。

K soreba: mukasino koto d jaki se:kara omosiro-  
それくらい 昔の 事だから。 それから おもしろ  
id jaika ate ga zin zjo: itine ne ita tokini  
いらっしゃいか わたしが 対常 一年へ 行った ときに,  
sono zibunwa ju:tara oman ma: unto kanemo-  
その 時分は 言ったら、 あなた まあ うんと 金持  
tino koto bin boni nno koto unto arakiga aq-  
の 子と 貧乏人の 子と うんと へだたりが あっ  
taki hora honde kanemotino kowa ano sekidao<sup>(24)</sup>  
だから、 ほら。 それで 金持の 子は あの せきだを (雪駄)  
hai tju:to bin boni nno kowa minna: zo:ridjaq-  
はいっていると、 貧乏人の 子は みんな ぞうりだっ  
takin i se:kara kimono wa tutu q pod jaki tutu-  
たから それから 着物は つつっぽだから, つつ  
(その短かい着物)  
qpo:de se:kara kamja sjobosjobodja: se:kara  
っぽうで, それから 髪は しょぼしょぼだ。 それから

(25)

a t e r a : a n o : n a n i j o j o k a s u r i n o k i m o n o k i : t e  
わたらしら あのう あれだ, かすりの 着物を 着て

m u r a s a k i n o a n o : h e k o : b j o s i t j o q t a k i h o r a  
紫の あのう へこ帯を していたから ほら。  
(結んでいた)

o t o k o m o o n a g o m o s o n n a m o n d j a q t a k i s o r e k a r a  
男も 女も そんな ものだったから。 それから

s e n s e i g a t a m a r u k a z u r a r i : q t o n a r a b e t e k a r a  
先生が まあ ずらりーっと ならべてから

i t a t o k o r o g a o m a N a t e w a i r o n o m a q k u r o i k a m i -  
いたところが あなた わたしは 色の 真黒い 髪

n o u n t o k u r o i k o d j a q t a t o s o : N d j a : k i n i o m a N  
の うんと 黒い 子だったとき。 それだから あなた

o t o k o n o k o n o k u e a t a : n a r a b a s a r e t e n e : h o i t a -  
男の 子の ところへ わたしは ならばされてねえ, そした

r a u t i n o a n o : o k a : s a n g a j u : k o t o n j a : s e n s e i  
うちの あのう おかあさんが いう ことには, 先生

s e n s e i s o n o k o w a a n o : o n a g o n o k o d e g o z a i m a -  
先生 その 子は あのう 女の 子で ございま

s u g a j u : t e j u : t a t o k o r o g a a r j a o z j o : t j a n d e -  
すがと 言って 言った ところが, あれ お嬢ちゃんで

(補注) s i t a k a a n m a r i o g e n k i n a k a o s i t j u : k i n i h o n d e  
したか あまり お元気な 顔 しているから, それで

o t o k o n o k o k a t o o m o i m a s i t a t o j u : t e j u w a r e t a -  
男の 子かと 思いましたと 言って 言われた

b a : d j a k i n i m e q s o i m a d e m o b e q p i N d e k a r a o m a N  
くらいだから あまり 今でも べっぴんでから あなた

k a w a i r a s i : k a o s i t j o r a n a : j o o m a N r a : n o t o k j a  
可愛らしい 顔 してはいないよ。 あなたなどの ときは

d o n n a k o t o j a q t a z e j o :  
どんな ことだったの。

S a t e r a o m a N o m a N g a s o n o s e k i d a n o k o t o j u : k i -  
わらしら あなた あなたが その せきだの こと 言うか

ni ju:keN done: ano sekidao haite oman  
ら 言うけれどねえ、あの せきだを はいて あなた  
katai qpo migiasiga konda hidari asjo suqte  
片一方 右足が 今度は 左足を すって,  
ito: te ito: te maqkoto hon to: sekidano ko:  
痛くて, 痛くて, 実際 ほんとに せきだの こう  
sure a: sedē  
すれあわせて,

K : N :  
んー。

S rjo: ho: no oman hon to: asiga taite ata' tiga  
両方の あなた ほんとに 足が ずいぶん わたしは 血が  
dete itaka qta koto: oboetju: ~ga  
出て 痛かった ことを 覚えているが。

K so: jo ano sekidaga hora u: n to atui ka: dja-  
そうよ, あの せきだが ほら うんと 厚い 皮だっ  
q taki hor ja  
だから ほら。

S so: jo so: jo  
そうよ, そうよ。

E hon de ano: hor ja kiribusajo kiribusajo ki-  
それで あのう ほら かかとよ, かかとよ, か  
ribusao tukimakuq turō<sup>(26)</sup>  
かとを 徹底的についたろう。

S arewa oman tuqtuite tuite rjo: ho: o dodai  
あれは あなた つっついで ついて 両方を まあ  
hon to: tiga dete are itaka qta koto im a obo-  
ほんとに 血が 出て, あれ 痛かった ことを 今 覚  
etju: ga tigo: ta monzejo  
えているが 違った ものだよ。

K sekara oman ri a do: zejo ateraga ensokuni iku  
それから あなたなど どうなの, わたしらが 遠足に 行く

- tokinjane: omaN<sup>1</sup> jakime s i jo hor ja  
 ときにはねえ、あなた 焼飯よ、ほら。
- S** so: so:  
 そう そう
- K** kendo meqso tiga: nkajo honnara omaNrato  
 けれど あまり 違わないかね、それなら あなたたちと  
 atera: to  
 わたしたちと。
- S** a no siroi huro siki e jakimesjo o: te tikuwao  
 あの 白い ふろしきへ 焼飯を 負って 竹輪を
- K** hutau: tu hutau: tu  
 二つ 二つ。
- S** tikuwao irete jo: kosiraete moro: te ita  
 竹輪を 入れて、よく こしらえて もらって 行った  
 koto djaqtaga  
 ことだったが。
- K** se: kara hora imadja: q tara suito: dja: naN<sup>1</sup>  
 それから ほら 今だったら、水筒だ 何  
 dja: ju: kendo sonna monga arukane: taká:  
 だと いうけれど、そんな ものが あるのかねえ。全く  
 imano kowa tokuze jo maqkoto nanja: ro kajaro  
 今の 子は 得だよ ほんとに。何や かや。
- S** rjuqku-saqkudja nanja: ro suito: dja: ju: jona  
 リュック サックだ 何とか 水筒だと いうよう  
 mono: kakete ikuga mukasja omaN usiroe  
 ものを かけて 行くが。昔は あなた うしろへ  
 huro siki e  
 ふろしきへ。
- K** sore gae: tokorodjaqtaki hora  
 それが いい ところだったから ほら。
- S** so: so: siroi huro siki gae: tokorojo  
 そう そう 白い ふろしきが いい ところよ。

K e: tokorodjaqtakine: jogorekajaqtekara<sup>(27)</sup> se:kara  
いい ところだったからねえ。 ひどくよごれて、 それから

mjo: na zo:rjo' horja: kokoe turikuqtekara  
変な ぞうりを ほら ここへ つってから,

ano: jokoqtjoe jokoqtjoe turikuqtekara se:-  
あのう 横の方へ 横の方へ つってから。 そ

kara imadjaq tara omaN senseiga daresore:  
れから 今だったら、 あなた 先生が 誰それと

ju: te namae jo:dara haidja ju:te ju:keNdo:  
言って 名前を 呼んだら、 ハイだなんて 言って 言うけれど、

sono zibunnja aidja i:joqtazejo ai ju:tara:  
その 時分にや アイなんて 言っていたよ。 アイ と言ったら

zjo: to:djaqtazejone: haidja: ju:te ju:jo:nai:  
上等だったよねえ。 ハイだなんて 言って いうような

kota: nakaqtaki hora: soreba: taka:  
ことは 無かったから、 ほら。 それぐらい ほんとに。

S jo: se:kara maekakeo site itano:  
よう、 それから 前かけを して いたねえ。

K N: so: so:  
んー、 そう、 そう。

S mukasino hitowa mukasino kowa:maekakjo:  
昔の 人は 昔の 子は 前かけを、

nagai maekakjo site jo: gaqko:e itaga:  
長い 前かけを、 して、 よく 学校へ 行ったが。

K makoto gaqko:e ikuni maekakjo sita arja:  
ほんとに 学校へ 行くのに 前かけを した。 あれは

do: ju: mondjaqtaro: horja sekara omaN:  
どう いう ものだったろう ほら。 それから あなた

i jarasi: hanasi djakendo obenzjo ite maekake:  
いやらしい 話だけれども、 お便所へ 行って 前かけて

teo huitari sitene: ima tjan to tenuguio: ko:  
手を ふいたり してねえ。 今 ちゃんと 手ぬぐいを こ

s i t e ( i t j u : ) i m a w a m o : t j a n t o n a m a e o k a i -  
うして (している。) 今は もう ちゃんと 名前を 書い

t j u : k i w a r i : k o t a s e r a r e N z e j o , o m a N z i b u n n o  
ているから、 悪い 事は してはいけないよ。 あなた 自分の

n a m a e o t j a n t o m u n e : k a i t j a u k i h o r j a  
名前を ちゃんと 胸へ 書いてあるから ほら。

S s e : k a r a o m a N a t j a : o m a N a n o : n a n i n o s i m a n o  
それから あなた わたしは あなた あのう 何の 縞(しま)の  
k i m o n o : o q t e m o r o : t e s o r e o k i : t e i t e t a m a : -  
着物を 織って もらって、 それを 着て 行って たいへん  
r u k a h o t a e j o q t e t u k u e n o s u m i n o k u g i e h i q k a -  
たいへん たわむれさわいでいて、 机の 隅の 釘へ ひっか  
k e t e t a m a r u k a k a g i z j a k i n i s i t e m o d o q t e k i t e  
けて おやおや 鍵の形に裂いて もどって 来て,  
t a i t e d u k a r e t a k o t o : e : w a s u r e n g a :  
ひどく しかられた ことを よう 忘れんが。

K o m a N r a : m o t a i t j a w a r i k o t o s u r u g a j a q t u r o  
あなたたちも ずいぶん わるさを する者だったろう,  
m o : i m a w a m o : w a r i k o t o s e : j u : t a t i t o s i  
もう 今は もう わるさを しろと 言っても 年  
j o q t e e : s e n k e n d o s o n o z i b u n n j a t a i t j a w a r i  
よって することができぬけれど。 その 時分にゃ ずいぶん わる  
k o t o s i j o q t u r o : k i n i  
さを していただろうから。<sup>(29)</sup>

S t a i t j a s i t a s i t a  
ずいぶん した, した。

K s e : k a r a h o r a : s e : k a r a o m a N a n o : k i m o n o j a r a m o  
それから ほら それから あなた あのう 着物なども

s o : d j a q t a k e n d o  
そうだったけれど。

S t a b e r u m o N m o t i g o : t a z e j o m a q k o t o <sup>(30)</sup> m u k a s i t o  
たべる ものも 違ったよ。 まことに 昔と

imato ju:tara maqkoto tigo:tazejo mukasja  
今と 言ったら、 まことに 違ったよ。 昔は、

K mukasi jaqtara itibaN e: saiga taimono koroba-  
昔だったら 一番 よい おかげが 里いもの ころば  
(里いにも砂糖  
si horja horja horja taimono korobasio  
し。 ほら ほら ほら 里いもの ころばしょ。  
を入れて煮たもの)

S sono taimono korobasiga kiraide hanenoke  
その 里いもの ころばしが きらいで はねのけ  
hanenokesite kutaga ma: mukasiwa nimono  
はねのけして 食ったが、 まあ 昔は 煮物

daikono nimono guraiga sekinojamakajo  
大根の 煮物ぐらいが 関の山かよ。

K N:N daikono nimono ga sekinojama se:kara mi-  
んーん 大根の 煮物が 関の山。 それから み  
soziruto ju:tara horja utide tunko tunko  
そしると 言ったら、 ほら うちで つんこ つんこ  
tuite mada misomo meqso: maziran gano mjo; ni  
ついで まだ みそも あまり まじらないの 変に  
ko:zikusaijo:nagade horja se:kara sjou:ju<sup>(31)</sup>  
こうじ臭いようなので ほら。 それから 醤油と  
ju:tara minna utide tukurijoqtaki  
言ったら、 みんな うちで つくっていたから。

S uti minna kau koto ga arumonka  
うち 皆 買う ことが あるもんか。

K kau kota zenjo tukau kota nakaqta zenjo  
買う ことは、 金銭を 使う ことは、 なかった。 銭を  
tukauti daitai mo:ke hitotumo nai gadjaki  
使うたって、 だいたい もうけ ひとつも 無いのだから  
horja honde ko:ku monmo tigo:ta imagoro  
ほら。 それで こう 食う ものも 違った。 今頃  
nanja:ro jo:sjokudja kare:dja naNDja ju:ke-  
何とか 洋食だ カレーだ 何だと 言うけ

n do kare: dja oman n and ja: ju: tati ar ja  
れど、 カレーだ あなた 何だと 言っても、 あれば  
mukasino ozijazejo (笑 声) k endo imano kowa  
昔の おじやだよ。 けれど 今の 子は  
t janto oman konogoro ano nani: ite mi: ja  
ちゃんと あなた このごろ あの 何へ 行って ごらん。  
kahuedemo ite mi: ja t ja: N to oman itekara  
カフエでも 行って ごらん。 ちゃんと あなた 行ってから  
kosjo kakete kara oman mukasino koto tigo:-  
腰を かけてから、 あなた 昔の 子と 違っ  
te arjo ku: koto siqtju: kini  
て あれを 食う ことを 知っているから。

S siqtju:  
知っている。

K taka: jaqta monzejo: maqkoto kor ja koko  
まったく でかした ものだよ。 ほんとに。 これは ここ  
z ju: neN sitara do: narurono: si makoto donna  
十年 たったら どう なるだろうね、 実際。 どんな  
mon kuidasuro'no' naNbo ju: tati kom jo kuwan  
もの 食いだすだろうね。 何と 言ったって 米を 食わんように  
naruzejo  
なるよ。

S torino maruqtademo jaite ku: ba: ni nara: jo  
鳥の 丸ったでも 焼いて 食うくらいに ならあよ  
omanmo  
あなたも。

K honde atega ima hor ja maqkoton o koto ga  
それで わたしが 今 ほら ほんとの ことが  
kom jo tuki ju: ro: (nizju:nineN) jaruke N done:  
米を ついているだろう、 (二十二年) やるけんどねえ,  
mainen mainen doqsari komeno tuku rjo: ga  
毎年 每年 どっさり 米の つく 量が

heq te kitaki miNna: komjo kuwaNjo:ni naq-  
へって 来たから みんな 米を 食わんように なっ

tawajo  
たわよ。

S paNo ku:kaj o  
パンを 食うかよ。

K i: paNdja: ra:meNdja: nanja: ro~ja ju: te  
いー パンだ ラーメンだ 何やらだと 言って

soNna moNbaqkari kutekara komjo rokuNi  
そんな ものばかり 食ってから 米を ろくに

kuwaNzejo  
食わんよ。

S mukasja mugimesja kuijoqtagan o:  
昔は 麦飯は 食っていたがねえ

K mugimesi mugimesi mugimesimade e:keNdo oman  
麦飯 麦飯 麦飯まで よいけれど、 あなた  
mada taimomesi  
まだ 里いもめし。

S taimomesi imomesi  
里いもめし いもめし。

K sore: sio iretekara oman siogaro:te tja:  
それへ 塩を 入れて、 あなた 塩がぐらくて 茶を  
iretara bokaboka hokahoka imobaqkariga uite ho-  
入れたら ぼかぼか ほかほか いもばかりが 浮いて ほ  
r ja  
ら。

S nukui utinara e:keNdo hijo: naqtara koroko-  
ぬくい うちなら いいけれど 寒く なったら、 ころこ  
ro korokoro soti ma:si koti ma:si hanete  
ろ ころころ そっち廻し こっち廻し はねて。

K se:kara horja oka:~ga oka:~ga mesjo joso:te  
それから ほら おっかあが おっかあが めしを よそって

kureru tokinjā horja imono keo imono keo  
くれる ときには ほら、 いもの 毛を、 いもの 毛を

suteta aho: ju:mai otojanni siroi mesjo  
捨てた(ら)、 あほう 言いなさるな、 おとうさんに 白い 飯を

kuwasan ja ikan kini omaNraga imo: kutjoqtara  
食わさねば いけないから、 あなたたちが いも 食っていたら

e: d̄ja: ju: tekara maqkoto geni sono sonna  
いいだとか 言ってから、 ほんとに 実に その そんな

koto: ju: keNdo makoto honna koto ju:kedo so-  
こと 言うけれど まことに そんな こと 言うけれど、 そ

no zibunni so: ju: jo: na hego: na mono: kute  
の 時分に そう いうような よくない ものを 食って

kita koga moqto d̄jo: buni aqtane:  
来た 子が もっと 丈夫に あったねえ。

S so: d̄ja imano kowane:  
そうだ、 今の 子はねえ。

K imano kowa aNmarikoto hon to Nmai mondja  
今の 子は あまり 本当に うまい ものだ

nandja korega zijo: d̄ja korega zijo: d̄ja ju:-  
なんだ、 これが 滋養だ、 これが 滋養だと 言つ

te kuwasu Ndo warikata jowaizejo  
て 食わせるけれど、 わりかた 弱いよ。

S so: juwa: tosijoriwa nandemo kuwanja ikan....  
そう 言うよ、 年よりは。 何でも 食わねば いけない....

K nandemo kuwanja ikan nandemo kuwanja ikan to  
何でも 食わなきゃ いけない 何でも 食わなきゃ いけないと

j u:  
言う。

S warii: kota: nakaqt̄ga imano kowa e: mono  
悪い ことは 無かったが 今の 子は よい もの

kute ano warui  
食って あの 悪い

K N zuqto makoto bjo:sinnakine: de jaqpari  
ん ずっと ほんとに 病身だからねえ、 で やっぱり  
mukasimitajoni taimo kutari karaimo: mugi-  
昔みたよに 里いもを 食ったり さつまいもを 麦飯  
mesjo kutarisitekara hutoraitamonga zuqto  
を 食ったりしてから ふとらせた(生育させた)者が ずっと  
djo:bunaki sono ho:ga zuqto e:zejo  
丈夫だから。 その 方が ずっと よいよ。

S sorekara konogoro hora denka denka denkaka-  
それから この頃 ほら 電化 電化 電化化  
~ja ju:te denkimono denkimonobaqkasi  
だと 言って 電気もの 電気ものばっかり。

K so:jo zenjobaqkari tuko:te  
そうよ、 ぜにをばっかり 使って。

S mukasjo mite mi:ja ranpu  
昔を 見て ごらん、 ランプ。

K ranpu  
ランプ。

S hu:  
ふーん。

K ateNkurane: makoto sono zibunja  
わたしのうちなどはねえ、 ほんとに その 時分には、

S atera:  
わたしなどは、

K ranpuno so:~djo saserareturo:~gajo  
ランプの 掃除を させられたんだろうさ。

S denki~ga tuitaga ateg~a oman ikutuba: no tokি-  
電気が ついたのが わたしが あなた いくつぐらいの とき  
~jaqturo: no: so:~ja itutuka muqtuba: no tokি-  
だったろうねえ。 そうだ 五つか 六つぐらいの とき  
~jaqturo ka  
だったろうか。

K bi q kur i si tur o  
びっくりしたろう。

S s ono tok in ja ma q koto bi q kur i si ta a ko : na q -  
その ときには まことに びっくりした。 明るく なっ  
te  
て。

K a ko : (笑 声) ke N do o ma N ra ma d a so : ju : ke N do -  
明るく けれど あなたなんか まだ そう いうけれど  
ne : a te ra ko d o m o n o tok in ja a N do d ja q t a d e jo  
ねえ、わたしなど こどもの ときには 行燈(あんどん)だったよ,  
a N do a N do  
あんど、あんど。

S a te ra : a N do wa s ir a N  
わたしなど あんさんは 知らん。

K s ir a N ro : s ono tok in j a ne : a no : a N do d e n e :  
知らないだろう その ときにやねえ あの あんどでねえ。  
N : kara j or u h ora mi N na k o d o mo j a r a g a s jo : b e N -  
それから 夜 ほら みんな こどもなどが 小便に  
n i o k o s a n ja i ka N ro : s ono tok in i h ora su q to  
に 起こさねば いけないだろう。 その ときに ほら すっと  
d e N k i d j a q t a r a su q to t uku ke N do r a N p u d j a  
電気だったら すっと つく けれど、ランプだなんて  
j u : t a r a o ma N k e s i t j our o : g a j o o ma N ho j a o  
言ったら あなた 消しているだろうさ, あなた。 ほやを  
(ランプの外側の球)  
ue : a g e t j o i t e s i N o t u k e t e s i j o q t a r a k o w a i -  
上へ あげておいて しんを つけて していたら あぶない  
r o : s o N d j a k i n i n e : a n o t o : s i N t o j u : h ora  
だろう。 それだからねえ あの 燈心と いう ほら  
a b u r a e t u k e t a a t e r a n o tok in ja a N do d ja q t a k i :  
油へ つけた。 わたしたちの ときには あんだったから,  
h o N de d e N k i d j a q t a r a o ma N su q to i m a h i ne q t a -  
それで 電気だったら あなた すっと 今 ひねった

ra tukuro: gajo taka: kendo zeitakuni naqta  
ら つくれどう。 たいそう しかし ぜいたくに なった

monzejo: honde minna' ima tosi ga: maenja  
ものだよ。 それで みんな 今 年が 前には

gozju:nendjaqtakedo ima sitizju:nendja ju:ken-  
五十年だったけれど、 今 七十年だと 言うけれ

done: imano hita mo qto bjo:kiga dekita  
どねえ。 今の 人は もっと 病気が できた。

kendo do: mouzejo omanra denkika denkika  
けれど どう 思うの あなたなど 電気化 電気化と

ju:te zenja na:Nbodemo irukendo ma: omanra  
言って、 ぜには いくらでも いるけれど、 まあ あなたなど

aterakara mitara daibu wakai kendo soro:dono  
わたしなどから 見たら だいぶ 若いけれど、 それほどの

ko:kaga aruto omo ukajo  
効果が あると 思うかね。

S hono kari mukasiwa hora zenimo oman to:hu-  
その かわり 昔は ほら ぜにも あなた 豆腐

ga sansenba:de kaejoqta zibundja:kini  
が 三銭ぐらいで 買えていた 時分だから。

K so:jo so:jo hijo:tinga sitiziqsen sitiziqsen  
そうよ、 そうよ 日傭(よう)賃が 七十銭 七十銭

komega zju:sansen-gorinba:~djaqtaki atera makor-  
米が 十三銭 五厘ぐらいだったから。 わたしなど ほん

to osikoku-heNroni itaga  
とに 御四国 通路に 行ったが。

S imano hitoni ju:tati oman hon to:ni suruka-  
今の 人に 言っても、 あなた 本当に するものか。

jo:

K aterane: zju:sitiba: no tok i osikoku-heNroni  
わたしなどはねえ 十七ぐらいの とき 御四国 通路に

i tagane: ano horja ohendo hendo hendo kene  
行ったがねえ。あのほらお遍路遍路。遍路。けれ

do utino odi: ja Ngano: ona gono kowa ano:  
どうちの おちいさんがねえ 女の 子は あのう

(32) ti qto osikoku-heNro demo itekara uruse: meni  
ちっと 御四国 遍路でも 行ってから 苦しい 目に

a: it jokan ja: joso e jomeni itati i kanki: dja  
会わしておかなければ、 よそへ 嫁に 行っても だめだからなどと

j u: tekara atera sono toki osikoku-heNroni  
言ってから、 わたしなど その とき 御四国 遍路に

i tagane: sono tokinja oman waradjo haite  
行ったがねえ。 その ときには あなた わらぢを はいて

it azejo waradjo dodai kiribusakara kagato:  
行ったよ、 わらぢを。 ほんとに かかとから かかとを

tume tekara tiga detene: ma qkoto taka: ju:-  
つめてから、 血が 出てねえ。 まことに 実際、 言っ  
(何と言つたつ)

tati nanimokamoga kendo mjo: ni mukasino  
ても 何もかも。 けれど なんだか 昔の  
てほんとに)

hito tigo: te imano hitowa mjo: ni hakuzjo:-  
人と 違って 今の 人は 変に 薄情

nato omo ja'sen  
だと 思いは しない。

S hakuzjo:naro:kano:  
薄情だろうかねえ。

K ata: mo qto mukasino hitoga zjo: ~ga aqta so-  
わたしは もっと 昔の 人が 情が あった、 そ

r ja kinjoga nani goto dja: ju:tati sun guni  
ら 近所が 何事だと 言っても すぐに

hasiriko: de kitekara oman jo: sewa si joqt-a-  
走りこんで 来てから、 あなた よく 世話を していた

ke ndo imano hita oman sa: ran kamin i batja  
けれど、 今の 人は あなた さわらぬ 神に 罰は

n a s i n i h e q h e q t o j u : j o : n a k a q k o s i t e k a r a o m a N  
無しに へっへっと いうような 格好をしてから, あなた

h e g o : n a k o t o n j a m e q s o j o b i n i k i t e k u r e N  
よくない ことには あまり 呼びに 来て くれん。

S k i n z j o n o h i t o d e m o d a r e g a k i t j u : j a r a m o s i r a N -  
近所の 人でも 誰が 来ているやらも 知らん  
z e j o よ。

K s o r e k a r a h o r j a k o n o j o n e d a d j a : t i s o : d j a i k a  
それから ほら この 米田でも そうぢゃないか,  
j o s o k a r a n o h i t o g a N : t o h a i r i k o N d e k i t e k a r a -  
よそからの 人が うんと はいりこんで 来てから  
n e :  
ねえ。

S w a k a r a N w a k a r a N  
わからん, わからん。

K s e : k a r a k i n z j o n o t u k i a i d e m o a N m a r i s e n j o n i  
それから 近所の つき合いでも あんまり しないように  
n a q t a m o n o h o r a : h o n d j a k e n d o a t e r a d e N k i k a -  
なつたもの ほら。 ただけれど わたしなど 電気化  
d j a n a n d j a j u : k e n d o n e : d e N k i g o t a t u o i r e t e  
だ 何だと 言うけれどねえ, 電気ごたつを 入れて  
n e r u n j a n e j o u k e n d o a q p a r i m u k a s i n o a n k a g a  
寝るには 寝ているけれど, やっぱり 昔の あんかが  
e : n o b o s e r u a t a :  
よい。 のぼせる わたしは。

S k o n o g o r o h o r e k a r a m u k a s i n o h i t o w a m a g t o  
この頃 それから 昔の 人は もっと  
k o : o m a i r i d j a : j u : j o : n a k o t o m o s i n z i N t o j u :  
こう お参りなんて 言うような ことも 信心と いう  
k o t o s i j o q t a k e n d o  
こと していたけれど。

K so:jo so:jo so:jo  
そうよ、 そうよ、 そうよ。

S aNmar i imano hitowa mite mi:ja maqkoto  
あんまり 今の 人は 見て みな。 全く  
oman kamisamawa' dokoni arujara  
あなた 神様は どこに あるやら。

K hitotumo so:dim o senjoni naqtaki tikagora:  
すこしも 掃除も しないように なったから、 近頃は。

S so:dim o sendokoroka teo awasete (ogamu) kota  
掃除も しないどころか、 手を 合わせて (挾む) ことは  
nairo:to omouga  
無いだろうと 思うが。

K nanzoto ju:tara he kamisamaga sorjo:do  
何だと 言ったら、 へ 神様が それほど  
erakaqtara nihonwa kamin o kuni...kaqtjora  
えらかったら、 日本は 神の 國 .....勝っていた  
kaqtjorad ja ju:tekara honna idikusono war:i  
勝っていたとか 言ってから、 そんな 意地の 悪い  
kotobaqqari ju:tene: nanbo kamisandjati omaN  
ことばっかり 言ってねえ。 いくら 神様だって あなた  
sono in i omoujo:ni ikukajo kendo mukasimo  
そのように 思うように いくものかね。 けれど 昔も  
horja onabare:ja ju:tekara makoto otigosa-  
ほら 御神幸だと 言ってから ほんとに 御稚兒さん  
ga dete ikujara se:kara omankuno horja ko-  
が 出て 行くやら。 それから あなたのうちの ほら こ  
domoram o urajasuno majo mo:taqjika kire:-  
どもらも 浦安の 舞を 舞ったぢゃないか。 きれい  
ni urajasuno majo mo:tari sitekara imamade  
に 浦安の 舞を 舞ったりしてから。 今まで  
hora zuqto kamisan no onabare ju:tati buraku  
ほら ずっと 神様の 御神幸と 言っても 部落

burakue iki joqtakedo ima gaqko:~djan: mo:  
部落へ 行っていたけど 今 学校だねえ もう。

S gaqko: gaqko: mo: ima gaqko: ni naqtju: ota-  
学校、 学校。 もう 今 学校に なっている。 御

bisjomo nai  
旅行も 無い。  
(神輿安置所)

K otabisjomo nai joni naqtane:  
御旅所も 無いように なったねえ。

S nai nai ie~ga taqte simo: te mukasino ota-  
無い、 無い。 家が 建って しまって、 昔の 御旅

bisjomo  
所も。

K se:kara ano minna:~ga horja mjo:na sumotori-  
それから あの みんなが ほら 変な すもう取り

no mjo:na mono kite se:kara mad~a oma:nra  
の 変な ものを 着て、 それから まだ あなたなど

ateto tosiga tigauki sirankendo mukasino  
わたしと 年が 違うから 知らないけれど 昔の

onabare ju:tara mo: si:one: si: no mi i:  
御神幸と 言ったら、 もう 椎(しい)をねえ 椎の 実 いー

si: no mio karakara karakara karakara karakara  
椎の 実を カラカラ カラカラ カラカラ カラカラと

ju: tekara iqtekaran: soreo uru se:kara  
いってから 炒(い)ってからねえ それを 売る それから  
(音を立てて)

surume misega uriju:~gaga so:rja kita sorja  
するめ 店が 売っているのが。 そうら 来た。 そら

kita sorja kita minna kita tenagaga maikuru  
来た。 そら 来た。 みんな 来た。 長い手が まがる。  
(適訳無し)

tenagaga maikuru ko:ta ko:tate ju:monde  
長い手が まがり廻る。 買った、 買ったと いうあんぱいで,

tenagaga maikuru ju:tara surumeo jaitara  
長い手が 卷きこむと 言ったら、 するめを 焼いたら,

omaN tjaratjaraqto maikururo:~gajo hon deno:  
あなた チャラチャラと 卷きこむだろう。それでねえ

zin zino onabare: ikuro: itara minna: sono  
神祭の 御神幸へ 行くだろう、 行ったら みな その

si: no mio gaza gaza gaza ju: se:kara kansjo  
椎の 実を ガサ ガサ ガサ 音たてる。それから 甘蕉(しょ)

kansjo horja kansjono o:kenagao urijou  
甘蕉。 ほら。 かんしょの 大きなのを 売っている。

S taite areo suwabuqtaga na~ga i~gao kataide  
ずいぶん あれを しゃぶったが、 長いのを かついで

modoqte  
もどって。

K sonna koto~djaqtakendo imago ro omaN kansjo  
そんな ことだったけれど、 今頃 あなた 甘蕉を

sitari omaN surumeda ja ju:tatine: omaN tjan-  
したり、 あなた するめなんて 言ってもねえ、 あなた ちゃん

to kikaide nosite simo: te tjan to sitja: uro:  
と 機械で のして しまって ちゃんと してあるだろう。

ano zibun ja omaN surumjo hitotu kau ju:ta-  
あの 時分には あなた するめを 一つ 買うと 言って

ti ma: nise nka sanse ndjaqtakendone: horja  
も、 まあ 二銭か 三銭だったけれどねえ。 ほら

dodai nigijakana monjo  
まったく にぎやかな ものよ。

S so: jo omaturini juku ju:tara goseN moro:ta-  
そうよ お祭りに 行くと 言ったら、 五銭 もらった

ra o:morai.  
ら 大もらい。

K zjo: to: zjo: to: zjo: to: sorja tiqto morai-  
上等 上等 上等。 それは すこし もらい  
sugiruba:~djaqta soreba: soreba: no kotojaqta-  
すぎるくらいだった。 それくらい それくらいの ことだった

k e n d o k jo : b i w a m o : s o n n a k o t o j u : t a t i i k a n -  
けれど、 こんにちは もう そんな ことを 言っても いけな

z e j o h o r j a o n a b a r e d j a n a n d j a j u : t a t i  
いよ。 ほら 御神幸だ 何だと 言っても。

S s o : j o  
そうよ。

K k e n d o m a : o t a g a i n i k o r e n a g a i k i s i j o q t a r a  
けれど まあ おたがいに これ 長生きしていたら、

t u k i n o s e k a i i k u t o j u : j o : n a z i b u n n i n a g t e  
月の 世界へ 行くと いうような 時分に なって

k i t a k i n i n o : h o n d e m u t u k a s i : m a :  
来たからねえ。 それで むずかしい まあ。

S s a n s e n j a g o s e n b a : m o r o : t a t i k o d o m a i m a  
三銭や 五銭くらい もらっても、 子供は 今

j o r o k o b j a s e N z e j o  
喜びは しないよ。

K m a q k o t o i m a o s e i b o d j a t i n o : h i j a k u e N b a : j a q t a -  
ほんとに 今 御歳暮だってねえ 百円ぐらい 出した  
t i j o r o k o b a N z e j o  
って 喜ばないよ。

S j o r o k o b u m o n k a s e N e N j a r a n j a : k o d o m a j o r o k o b j a  
喜ぶものか。 千円 やらなきゃ、 子供は 喜びは  
s e N z e j o n a n t j a : k a e N k i n i  
しないよ。 何も 買えぬから。

K m a : t o n i k a k u n a n j a : r o d j a n o : a n o : n a n i g a s i -  
まあ とにかく なにやろだねえ、 あの 何が し  
n u k u : s e i k a t u g a s i n i k u : n a q t a n e .  
にくく、 生活が しにくく なったねえ。

S s i n i k u : n a q t a  
しにくく なった。

K m o : k e r u n j a m o : k e r u k e n d o h o r j a h u : t a i g a  
もうけるには もうけるけれど、 ほら 費用が

i r u k i n i i : m a q k o t o k e N d o k o r j a k o k o z ju: -  
いるから、いー 実際 けれど こりゃ ここ 二十

n e N m o s i t a r a d o : n a r u r o : n e : k e d o k o r e m o  
年も したら、どう なるだろうねえ。けれど これも

t a n o s i m i z e j o<sup>(33)</sup>  
楽しみだよ。

S ma : n a g a i k j o s e n j a : i k a N g a  
まあ 長生きを しなければ いけないが。

K n a g a i k j o s e n j a : ( i k a N g a ) a t e r a m o : i j a t a q -  
長生きを しなければ ( いけないが ), わたしなど もう いや。あき  
t a n a g a i k i m o t a q t a t a q t a m o :  
た。 長生きも あきた あきた。 もう。

## 注

### 1. しばてん夜話

- (1) [p. 5] ate; ate i 一人称。男女共用。高知市では若い人は、ほとんど使用しない。
- (2) [p. 5] sibaten は、ちびで、すもうがすき。人をみかけると、勝負をいどむ。相手になった大の男も、例外なく手玉にとられる。語原は「芝天狗」と言われる。田岡典夫氏は「天狗の幼虫」と解釈している。
- (3) [p. 5] 几よいよ暑くなります。」というような共通語的用法と異なる。「ここは、いよいよ暑い。」などのように、「たいそう」「ひじょうに」の意に使用される。
- (4) [p. 5] no: si という終助詞には、多少相手を尊敬する気持がある。
- (5) [p. 5] 土佐の女性には hora hora; horja; horja horja などが頻出する傾向がある。相手の注意を引こうとする一種の強調現象か。
- (6) [p. 5] 高知県吾川郡伊野町
- (7) [p. 6] ほかに「鼻の穴」 hanano su
- (8) [p. 6] 普通は ku: rai というところ。
- (9) [p. 6] omaNku (あなたの家)などがある。
- (10) [p. 6] いわゆる「と抜け現象」
- (11) [p. 6] oNs i は「お主(ぬし)」から由来すると言われる。男子が使用するが、相手を軽べつしていう場合などである。もっともごく親しい者同志が使用する場合は、かえって親愛をあらわす語とも言える。
- (12) [p. 7] 普通 tikuto が現われるが、これはその強調形。
- (13) [p. 7] /s/ にしばしば /h/ が対応する。
- (14) [p. 8] a: は厳密には ā ā 高知市およびその近傍で、60台以上の婦人が使用する。感嘆詞。
- (15) [p. 8] 土佐人が頻発する感嘆詞 amaruka とも。
- (16) [p. 8] この bara は、とげであろう。
- (17) [p. 9] kibaru は、共通語と形は同一であるが、意味がすこしづれ、「いばる」ならぶるなどの意。kiqtjoru は、ほかに rikimikiqtjoru などがある。「力む」の強調形。
- (18) [p. 10] hosoi の強調形。  
katai —— kaqtai

kakui — kaqkui  
matai — maqtai (弱い)

- (19) [p.12] ~nika:raNは、土佐の代表的方言連語。  
arja nekonika:raN (あれはどうも猫らしい。)  
asuwa do:mo hurunika:raNzejo (あすはどうも降りそうだよ。)
- (20) [p.12] omo:taniとも。この方がむしろ多く使用される。
- (21) [p.16] 高知市の商店街。

## 2 土佐のオナゴのよもやま放談

- (22) [p.19] この次にSさんのかすかな声が聞こえる。omaNg a i: ja (あなたが言いな) であろう。
- (23) [p.20] 第三者の発言。障子をへだてて、誰かが答えている。中年の女性の声である。
- (24) [p.20] 竹の皮のぞうりの裏に皮を張り、鉄を打ったもの。この鉄でよくかかとのあたりを打ち、傷をした体験を筆者も持っている。
- (25) [p.21] ki:te;ki:ta;ki:tjoru (着)  
ni:te;ni:tq;ni:tjoru (似・煮)
- (26) [p.22] 「突きに突いたろう」とも訳せる。このmakuruは  
kakimakuru (書)  
hukimakuru (吹)  
nomimakuru (飲)  
dukimakuru (づく〔しかる〕)  
などとproductiveである。これも一種の強調現象である。
- (27) [p.24] jogorekajaruは、jogoreruの強調形。  
hjo:gekajaru (ふざける)
- (28) [p.24] この形は中年以上の人が使用する。(若い世代はjondaraである。)ほかに  
ko:da (噛んだ)  
to:de (飛んで)  
o:da (編んだ)  
などがある。
- (29) [p.25] sijoqturo:は、若い世代ならsijoqtaro:
- (30) [p.25] makotoとも。男女を問わず、土佐人同士の会話によく現れる副詞。これも土佐人が強調的に物を言おうとする傾向の反映である。
- (31) [p.26] 土佐ではsjo:ju:と、endingを引き音にするのが一般。

(32) [p. 33] 普通は *ur usai* が現われるべきところ。

(33) [p. 39] *z* が *d* に近くきこえる。

この会話には *overlap* がしばしばあらわれる。意気投合した者同志が話をしていて、話が調子に乗って来るところを現象をおこすのは、むしろ自然の行き方かも知れない。

(補注)

\* [p. 21] 「お嬢ちゃん」は、四つがな識別の上から言えば、[*oðgo:tʃan*] と発音すべきだが、大概の土佐人が [*oʒo:tʃan*] と発音している。識別例外語の一つ。

非 壳 品

1968年3月

国立国語研究所 話しことば研究室 発行

東京都北区 稲付西山町